21025 社会福祉援助技術演習Ⅲ a、b (3年次生以上対象) Seminar in Social Welfare Aid Skills III		3年次～ 前期 2単位	
担当者	沼田 正人／山中 俊克	履修可能学科	W
		関連資格	教職・社福士必 (W)
サブタイトル			
授業内容 ねらい	<p>これまでの社会福祉関係の講義・演習・実習での学びをこの演習での体験学習を通して、夏期休業中の社会福祉援助技術現場実習で実際に社会福祉援助技術を施行することができることを目的とする。したがって、演習の内容は具体的な領域をイメージし、より実践に近い形で演習を体験する。</p> <p>具体的には、社会福祉援助技術現場実習で試行することが可能な直接援助技術・間接援助技術のロールプレイ、事例研究、ケアマネジメント等の体験をする。</p> <p>また、基礎構造改革の視点にたち、地域福祉への視座の構築を意図して地域社会のフィールドワークも併せて体験する。</p> <p>この演習では従来の演習以上に社会福祉援助技術現場実習でのソーシャルワーク実践を前提に、ソーシャルワーカーとしての専門性の修得度の確認、職業倫理の体現の理解を課題とする。そして、自己覚知の到達度を学生自身が認識できるよう必要に応じて、課題の評価のフィードバックや個別面接によるスーパービジョンを実施する。</p> <p>授業は各々の演習のクラスごとに行うが、演習課題によっては、クラスを超えたグループ活動・合同授業も実施する。</p>		
授業計画	<p>演習課題</p> <p>①社会福祉援助の視点の確認 ②ソーシャルワーカーとしての自己覚知 ③面接技術と記録技術の試行 ④ケアマネジメントの体験 ⑤地域福祉実践への視座の構築</p> <p>1. ガイダンス (講義内容の説明、前年度の学びの振り返りのレポート) 2. 自己覚知①-1) 高齢領域 (“考えること”“思うこと”“感じること”の相違) 3. 自己覚知①-2) 高齢領域ワークシート①の自己評価 4. 記録技術①児童・施設 (ビデオを見て、実習を想定して記録技術の試行) 5. 社会調査 (記録の評価、フィールドワークの説明、次回課題の説明) 6. 社会調査 (フィールドワークの実施) 7. 自己覚知②-1) 障害・家族 (課題を読んでグループディスカッション)</p> <p>8. 自己覚知②-2) 障害・家族 (グループ学習発表) 9. 面接技術 (面接の疑似体験) 10. 面接技術 (逐語記録の作成) 11. 面接技術 (面接技術の自己評価) 12. 援助計画の策定-1) 実習領域 (グループ学習) 13. 援助計画の策定-2) 実習領域 (プラン作成) 14. 援助計画の策定-3) 実習領域 (スーパービジョン) 15. 記録技術②実習領域 (面接技術の演習の様子を、実習現場を想定して記録に起こしてみる)</p>		
教科書 参考書	授業内で指示する。		
評価方法	授業の出席が3分の2に満たない場合は評価の対象としない。 個々の課題、授業への参加態度によって総合評価する。		
事前準備学習 履修条件等	社会福祉概論、心理学、社会福祉援助技術総論、同各論Ⅰ・Ⅱ並びに社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ、人間福祉実習・同指導が単位修得済みであること。		